





港には船が戻った

会場は多くの人で埋め尽くされ、またたくさんの方の漁旗で埋め尽くされていた。津波で家を無くした元住民もこの神楽復活祭で集まり、友人・知人も集まったのだ。さまざまな支援を惜しまなかった郷土芸能関係者も集まった。遠路駆けつけた多くの人々もいた。そうしたみんなが集まって復活祭が出来上がった。会場はそうした人々の熱気で包まれた。

なしであった。そこにも人々の交流があった。復活祭開催、アトラクションもあり  
開会にあたり保存会会長から「被災した大室南部神楽を復活させ、郷土の伝統芸能を継承し、後世に伝える」とあいさつがあった。そのあいさつを皮切りに次々に演目が開始された。三番叟、岩戸入り、宝剣納め、田村三代、五條の橋、奥州上り、屋島合戦と演目は続く。神楽の舞い手のなかには家族を失った人もいる。その亡くなった家族のために舞う姿は鬼気迫るものがあつた。



工専用特殊車両

名演技には威勢の良い掛け声と拍手  
昔からの神楽ファンは見所を良く知っている。各演目の見せ場に差し掛かると、場内から威勢の良い掛け声、声援が飛ぶ。そして割れんばかりの拍手が続く。舞い手もそれに応えて、迫力ある演技となる。観衆と一体になる。会場がひとつになるのである。たまたま筆者は、保存会メンバーのなかのある三兄弟と知り合いであつたが、その演技はことさらに熱心に鑑賞した。

惜しかったに違いない。もつともつと見ていたかつた。もつとみんなど語り合いたかつた。そうした思いのまま閉幕となつた。打ち上げの関係者勢ぞろいの写真撮影がまた良かった。ほんとはみな思い切り泣きたいが我慢しての笑顔でも泣いてしまった人もいた。でも泣いたついでにはないか。ここまで来るのに大変な思いをしたのだ。しかしやはり涙をこらえての笑顔の方がいい。何回も何回も写真撮影があつた。



十三浜特産物

大室周辺の復興工事  
大室に行く途中、大きな工事用特殊車両が見えた。まだ護岸工事は終わっていない。津波で破壊されたかつて堤防があつた場所には巨大な土嚢がたくさん積み上げられている。そして、堤防跡の周辺を

歩いてみると、津波の痕跡があちこちにあつた。壊れた橋。夕刻の満潮が近づいてくると、大きな波しぶきが上がるが、何度も目に焼きついたのであの大津波の映像が蘇つてしまう。近くには、壊れたままの建物があり、グニャリと曲がった鉄骨階段が津波の恐ろしさを思い出させる。まだまだ復興したとはいえない状況が厳然としてそこにあつた。少し外海から離れ、内陸に向かうと、汽水域には葦が群生している。遠くに見える工事用の特殊車両があれば、本当に美しい風景である。一幅の絵画を見ているようであつた。きつと津波被災前にはもつと大きな葦の群生が見られたにちがいない。



十三浜の葦



工事の看板



津波の痕跡



途中で見かけた釜神さま



壊れたままの橋



破壊された建物



イベントリーフレット

# おいしい復興支援 三陸の海産物とお酒のイベント 第一回 三陸酒海鮮会 於：焚火家渋谷店 4/27



三陸生産関係者あいさつ

ゴールデンウィーク初日の四月二十七日、東京は渋谷の「ヒカリエ」から歩いて十分のところにある『焚火家』で、第一回『三陸酒海鮮会』を開催。参加者はほぼ満席の五〇名弱。このイベントは当新聞主



牡蠣



宮城のお酒



鯨の缶詰と牛のすき焼き



缶詰を使ったレシピ



店長と友人

催で、三陸の海産物を素材に、お店でおいしい料理にしていたら、同じく三陸の日本酒とともにいただきながら、三陸の復興を支援してもらおうというイベント。別名『おいしい復興支援』とも名付けている。

た焚火家には、イベント企画当初から多大なご協力をいただき、かつ素材の三陸の海産物からさまざまな料理を作って素材の魅力を十二分に引き出していた。三陸の地酒飲み放題つきでの五千円という復興支援価格であった。オーナー、店長、料理長、スタッフの方々に、御礼申し上げます。

な缶詰を、また石巻市雄勝にある「OHガッツ」という合同会社から、牡蠣、ムール貝などを提供していただいた。また松島にある「むどう屋」からは宮城県産日本酒をたくさん用意した。このイベントは、一回きりではなく二回目以降も継続して開催することになった。三陸の海産物は四季折々の特産があり、二回目以降、ほぼ二〜三ヶ月に一度の割合で提供し、三陸の特産物の裾野の広がりを実

感じてもらおうと考えている。おいしい復興支援と名付けている通り、東京にいながらにして、三陸の海産物料理をたくさん食べ、三陸の日本酒をたくさん飲むことが復興支援につながる。今後は、Facebook中心に開催案内をする予定。ぜひ継続的にこのイベントにご参加いただきたい。

被災地復興はとても本格的なスタートを切ったと言える状況にはない。そうしたきびしい状況のなかでも被災漁業生産者は、何とか生産の復興に取り組んでいる。とはいえ、生産は何とかが動き出しても、販売面消費促進まではとても手が回らない。また、震災前までは大きなウェイトを占めていた被災地近隣の消費もかなり落ちてきている。結果的に本格復興したるまでにはさらに遠い道のりを歩まねばならない。そこで、東京

圏で消費の支援をして、結果的に生産の復興の後押しをすることを当イベントの目的としている。とはいえ、このイベント一・二回だけでは、漁業生産者を支援したと言える規模にはほど遠い。こうした会を重ねること、規模も拡大していくことが必要である。そうすることで、被災生産者に目に見える貢献となるまでになりたい。ぜひ読者のみなさまの絶大なご協力をお願いしたい。

なお、参加者の手元には被災地の被災状況、その後の復興への道のり、現状などを記載した簡単な資料も配布し、また、その素材の購入も呼びかけた。最後に、参加者の多くから、ボランティアという形での継続も良いが、継続していくためのしっかりとした体制を構築することが必要だとの指摘もいただいた。またことによりがたい。あらためて参加者の方々に御礼申し上げる。



飲兵衛集団



いよいよイベント開始



お酒もどんどん進む



一番酒が強いのは誰か



料理長とスタッフ

# 道州制導入の現状と課題

## 道州制を巡る これまでの動き

民主党政権時代に停滞していた道州制導入に関する議論が、第二次安倍政権に代わって再び動き出しつつある。今回はこの動きについて見ていきたい。

そもそも、道州制導入に関する議論が最も進展したのは、第一次安倍内閣の時である。元々小泉政権下の二〇〇六年に、第二八次地方制度調査会が「道州制のあり方に関する答申」を出したのを受けて、次の第一次安倍内閣では道州制担当大臣が置かれた。

また、第一次安倍内閣では道州制ビジョン懇談会が設立されたが、二〇〇八年に出されたその中間報告では「道州制は、日本を活性化させる極めて有効な手段であり、その実現に向けて国民全体に働きかけて、邁

進すべきものである」として、道州制導入に極めて前向きな姿勢を示している。そして、『中央集権国家』

から『分権型国家』、いわゆる『地域主権型道州制国家』への転換は、画一的企業大量生産から知能社会、グローバル化という時代の転換に対応する歴史的必然である」とまで述べている。

それに次いで二〇〇八年七月に出された自民党の「道州制に関する第三次中間報告」でも、「二一世紀に羽ばたこうとする日本は、官僚統治による中央集権政治から脱却し、国民の総意と努力による、安全で、安心で、公平な国づく

り、地域づくりを推進しなければならぬ。そしてわが国の存続と発展のためには、抜本的に国のあり方を見直し、中央政府及び地方府のそれぞれの責任を明確化するとともに、地域の経済力の強化を図ることが

必要である」と高らかに謳っている。道州制導入の目的としては、①中央集権体制を一新し、基礎自治体中心の地方分権体制へ移行、

②国家戦略、危機管理に強い中央政府と、広域化する行政課題にも的確に対応し

国際競争力を持つ地域経営主体として自立した道州政府を創出、③国・地方の政府の徹底的な効率化、④東京一極集中を是正し、地方に多様な活力ある経済圏を創出、の四点を挙げている。

この他、日本経団連も二〇〇七年に「道州制の導入に向けた第一次提言」を、翌二〇〇八年に「道州制の導入に向けた第二次提言」を相次いで公表し、道州制導入を速やかに進めるよう強く要望している。

こう見てくると、道州制について取り沙汰されるようになったのはつい最近のことのように見えるが、実はそうではなく、例えば行政制度審議会が一九二七年に「州庁設置案」を提言する

## 再び動き出した 道州制導入

自民党の道州制推進本部は既に昨年六月に「道州制のイメージ」を公表、九月には「道州制基本法案」の骨子案を取りまとめた。

昨年一二月の総選挙では自民党が圧勝し、第二次安倍内閣が発足したが、この選挙において道州制導入は公約の一つともなっていた。総選挙での勝利、そして政権奪還を経て、自民党は道州制導入への動きを本格化させてきている。

自民党が先に取りまとめた「道州制基本法案」は、連立与党である公明党の「道州制導入を前提とした法案ではない」との主張に配慮して「道州制推進基本法案」という名称となり、地方の意見を踏まえて議論を進める旨が盛り込まれた。両党は、この法案を国会に提出し、早ければ今国会中にも可決・成立させる

考えのようである。道州制導入には日本維新の会やみんなの党、民主党も賛成すると見られ、採決されれば成立はほぼ確実な情勢である。

## 基本法案に盛り込まれた道州制の姿

では、この「基本法案」とはどのようなものだろうか。最初に押さえておきたいのは、今回の法案は、一

足飛びに道州制の導入を決定するというものではなく、導入の具体的な検討に入るための基本的方向や手続き、必要な法制の整備について定めるという趣旨のものであるということである。

法案ではまず道州制の定義について、都道府県の区域より広い区域において設置され、国から移譲された広域事務と都道府県から承継した事務を処理する広域的な地方公共団体である

「道州」と、市町村の区域を基礎として設置され、従来の市町村の事務と都道府県から承継した事務を処理する基礎的な地方公共団体である「基礎自治体」で構成される地方自治制度である、としている。

その上で、導入の基本理念として、  
①国の役割及び機能の改革の方向性を明らかにする。  
②中央集権体制を見直し、国と地方の役割分担を踏まえ、道州及び基礎自治体を中心とする地方分権体制を構築する。

③国の事務を国家の存立の根幹に関わるもの、国家的危機管理その他国民の生命、身体及び財産の保護に国の関与が必要なもの、国民経済の基盤整備に関するもの並びに真に全国的な視点に立つて行わなければならないものに極力限定し、国家機能の集約、強化を図る。

④③に規定する事務以外の国の事務については、国から道州へ広く権限を移譲し、道州は、従来の国家機能の一部を担い、国際競争力を持つ地域経営の主体として構築する。

⑤基礎自治体は、住民に身近な地方公共団体として、従来の都道府県及び市町村の権限をおおむね併せ持ち、住民に直接関わる事務について自ら考え、自ら実践できる地域間欠性を有する主体として構築する。

⑥国及び地方の組織を簡素化し、国、地方を通じて徹底した行政改革を行う。  
⑦東京一極集中を是正し、多様な活力ある地方経済圏を創出し得るようになる。

その基本理念を踏まえ、制度化の基本的な方向としては、  
①都道府県を廃止し、全国の区域を分けて道州制を設置する。都の在り方については、道州制国民会議において、その首都としての機能の観点から総合的に検討するものとする。

②道州は、広域的な地方公共団体とし、前述③に規定する事務を除き、国から道州へ大幅に事務を移譲させて、広域事務を処理するとともに、一部都道府県から承継した事務を処理する。

③基礎自治体は、市町村の区域を基礎として編成し、従来の市町村の事務を処理するとともに、住民に身近な事務は都道府県から基礎自治体に大幅に承継させて、当該事務を処理する。基礎自治体においては、従来の市町村の区域において、地域コミュニティが維持、発展できるよう、制度的配慮を行う。

④道州及び基礎自治体の長及び議会の議員は、住民が直接選挙する。  
⑤道州の事務に関する国の立法は必要最小限のものに限定するとともに、道州の自主性及び自立性が十分に発揮されるよう道州の立法権限の拡大、強化を図る。

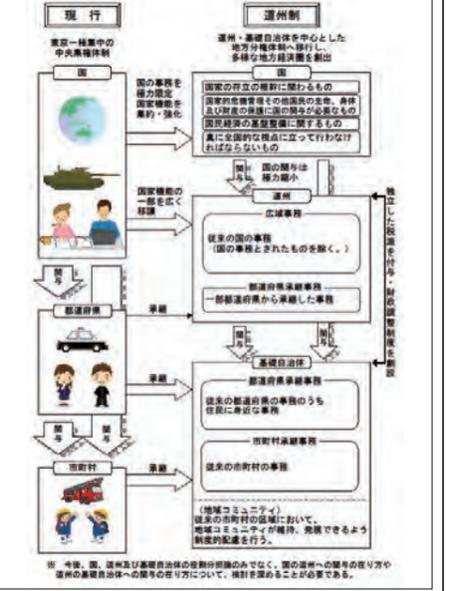
⑥国の行政機関は整理合理化するとともに、道州及び基礎自治体の事務に関する国の関与は極力縮小する。  
⑦道州及び基礎自治体の事務を適切に処理するため、道州及び基礎自治体に必要な税源を付与するとともに、税源の偏在を是正するため必要な税制調整制度を設ける。

⑧都道府県の事務の道州及び基礎自治体への承継手続きその他道州制の導入に伴い検討が必要な事項に関すること  
⑨道州及び基礎自治体の組織に関すること  
⑩首都及び大都市の在り方に関すること  
⑪道州制の導入に関する国の法制の整備に関すること

⑫道州及び基礎自治体の立法権限及びその相互関係に関すること  
⑬道州及び基礎自治体の財政調整制度並びに財政調整制度に関すること

## 道州制導入へのプロセス

道州制導入への具体的な手続きについては、内閣に「道州制推進本部」を置くことを定めている。同本部は、①道州制に関する企画及び立案並びに総合調



整に関する事務、②道州制に関する施策の実施の推進に関する事務、③その他法令の規定により本部に属する事務、を司るとしている。

さらに、内閣府には「道州制国民会議」を置く。同会議は、①内閣総理大臣の諮問に応じて道州制に関する重要事項を調査審議する、②①の重要事項に関し、内閣総理大臣に意見を述べ、③その他法令の規定によりその権限に属する事務を司る、とされている。

同時に内閣総理大臣は、  
①道州制の区割り、事務所の所在地その他道州の設置に関すること  
②国、道州及び基礎自治体の事務分担に関すること  
③国の機構の再編並びに国の道州及び基礎自治体への関与の在り方に関すること

④国、道州及び基礎自治体の立法権限及びその相互関係に関すること  
⑤道州及び基礎自治体の財政調整制度並びに財政調整制度に関すること

また、同会議は諮問を受けた場合には三年以内の答

## 執筆者紹介

大友浩平 (おともこうへい)  
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。  
「東北ブログ」  
http://blog.livedoor.jp/anagmas/



大友浩平氏

Facebook  
https://www.facebook.com/kouhei.ohtomo

必要である」と高らかに謳っている。道州制導入の目的としては、①中央集権体制を一新し、基礎自治体中心の地方分権体制へ移行、

では、この「基本法案」とはどのようなものだろうか。最初に押さえておきたいのは、今回の法案は、一

足飛びに道州制の導入を決定するというものではなく、導入の具体的な検討に入るための基本的方向や手続き、必要な法制の整備について定めるという趣旨のものであるということである。

その基本理念を踏まえ、制度化の基本的な方向としては、  
①都道府県を廃止し、全国の区域を分けて道州制を設置する。都の在り方については、道州制国民会議において、その首都としての機能の観点から総合的に検討するものとする。

また、同会議は諮問を受けた場合には三年以内の答

申を、また政府は答申があった時は二年を目途に必要な法制の整備を実施しなければならぬことが定められている。いわば同会議の決定事項がそのまま法制として整備されることになるわけで、ここからも同会議の存在の大きさが見て取れる。

### 根強い慎重論・

#### 反対論

こうした動きを見ていると、あたかも道州制導入がすぐ現実のものとなりつつあるように見えるが、一方で道州制導入には根強い慎重論や反対論もある。

道州制導入に前向きな知事と政令指定都市市長をつくる「道州制知事・指定都市市長連合」は二月に「地方分権の究極の姿である道州制の早期実現に向けた積極的な取組を求め」との声明を発表しているが、四月一八日に開催された全国知事会では、道州制導入に慎重な立場を取る知事から反対意見が相次いだ。

全国知事会では今年一月、「道州制に関する基本的考え方」を取りまとめている。その中では、道州制の基本原則、道州制検討の進め方、地方分権改革の推進の三点について詳細に前提条件を提示している。これは実効性ある道州制導入について提言を行っていることと見える一方、「このような条件を満たさない道州制

の導入は認められない」として道州制導入のハードルを上げているようにも見える。

結局四月一八日の会合では、全国知事会は、道州制基本法案には「いくつかの懸念がある」として、

①中央府省等国の行政組織のあり方について、法案骨子案においては、国の行政機関の整理合理化との方向性が示されていないが、

道州制が中央集権体制を改め、地方分権型国家を構築する、正に国のあり方を根底から見直す改革とするならば、法案骨子案において、国の出先機関の原則廃止、国の中央府省の解体・再編が不可欠であると考える。

②基礎自治体のあり方について、法案骨子案においては、都道府県を廃止してその大部分の事務を基礎自治体に移譲し、残りの一部を道州に引き継ぐとしている。しかし、産業・雇用政策や指定区間外国道、指定区間一級河川の管理、また、警察、環境保全といった広域的事務は道州が自己完結的に担うものと考えられる。仮に、そうした事務を基礎自治体が引き継ぐとするならば、市町村の広域的再編が問題となるのではないかと考える。と指摘、これらの二点について更なる検討を求めた。

道州制推進知事・指定都市市長連合の共同代表を橋下徹大阪市長とともに務める村井嘉浩宮城県知事は周

知の通り道州制導入に極めて前向きだが、道州制導入の暁には同じ「東北州」を構成すると思われる他の東北五県の知事は揃って道州制導入に慎重である。ばかりか、この連合には仙台市長も参加していない。村井知事はもつと他の知事や仙台市長との関係を強化して足元を固めるべきではないかというのが率直な印象である。

一方、自由法曹団も四月一日に「住民の声とくらしを切り捨てる道州制を批判する」との声明を出している。その中では道州制の問題点として①おびやかされる社会権保障、②空洞化する地方自治、③公務員の大量解雇による雇用不安の拡大、の三点を挙げている。

こうした道州制に対する不信や疑心暗鬼も分らないではない。何と言っても北海道の例がある。北海道は二〇〇六年に成立した道州制特区推進法の対象となつた。既に道州の規模を持つ北海道に、先行して道州制の「モデル事業」を担わせようとしたのである。ところが、北海道が提言した三〇にも及ぶ権限移譲項目の中で、認められたのはたったの二項目である。これでは国の道州制導入への姿勢に疑念を抱かれるも仕方がないのではないかと。すなわち、道州制は導入されても、国は権限を大幅に地方に移譲する考えはないのではないか、という

## 復興庁認定『水産業復興特区』(宮城・石巻・桃浦地区)

本当にこれで水産業が復興するのだろうか？  
特区問題で争っている場合ではない！

### 『水産業復興特区』 第一号認定！

#### 桃浦地区

復興庁が四月二三日に、宮城県石巻市桃浦地区に日本初の『水産業復興特区』を認定した。

この申請をめぐっては、宮城県と宮城漁業協同組合が激しく争つて一躍有名になった道州制を取り巻く現状と課題について見えてきた。次回とは次のようなか、導入されるべき道州制像についてさらに考えてみたい。

間企業にも開放し、震災で被災した漁業者や後継者不足を解消する手段として活用すべしと主張。他方、宮城県漁業共同組合及び力キなどを養殖する周辺漁業者の一部は、民間企業の参入によって、魚場が荒らされるなど、従来の伝統が破壊される不安がある。そうしてこの問題に対しての賛否両論はますますにぎやかになってきている。

が復活させるのかという課題も残る。確実にあるのは獅子頭と胴幕だけで、笛も太鼓もないし、笛の吹き手も太鼓の吹き手も、獅子舞の舞い手も現在はいない。一方、震災以後に計画された土地のかさ上げ工事も大分遅れて、なかなか住民が戻れない。そうこうするうち、最初は戻ろうとしていた住民まで脱落しかけていくとも聞く。そうした集落に、立派な水産物処理場が完成している現実には確かに存在するのである。

### 桃浦地区の住民減少

当新聞では昨年夏、この桃浦地区の獅子舞復活の記事を取り上げた際に、津波被災後の住民数が三世帯四人にまで減少し、大半の住民が遠くの仮設住宅に避難していることを伝えた。震災前は六〇世帯、一五〇人だったというからその減少率はすさまじい。

また、その記事では獅子舞のことも取り上げた。一旦は津波で流され、その後奇しくも発見された獅子頭をベースに、現在六〇年途絶えていた本格的な獅子舞復活を企画しているが、将来の担い手を誰にするか、いやその前に、誰

が復活させるのかという課題も残る。確実にあるのは獅子頭と胴幕だけで、笛も太鼓もないし、笛の吹き手も太鼓の吹き手も、獅子舞の舞い手も現在はいない。一方、震災以後に計画された土地のかさ上げ工事も大分遅れて、なかなか住民が戻れない。そうこうするうち、最初は戻ろうとしていた住民まで脱落しかけていくとも聞く。そうした集落に、立派な水産物処理場が完成している現実には確かに存在するのである。

三陸の水産市場のバイ全体を拡大する必要があるが、そうした戦略などは依然として聞こえてこない。このような状況のなか、特区論議ばかり取り上げるのは筋違いではないか。

### 県は水産業復興の ビジョンを打出すべし

当新聞としては、今般の『水産業復興特区』認定問題について賛否を表明する前に述べておきたいことがある。

まず宮城県に対しては、被災地の水産業復興の将来ビジョンを明確に打ち出すべきであり、そのなかで特区の位置づけを明らかにして欲しいと言いたい。

どこに向かつて復興するのかのビジョンなしに、ただやみ雲に突き進んでも良い結果は期待できない。とりあえずの目先の復興、震災前の状態を取り戻すだけでは、すでに逃げて行ってしまう消費や市場は戻らない。今度は同じ被災地同士で消費と市場を奪い合うことになるのだ。またそうした競争の前に

いて以来、何千年も何万年も続いてきた漁業である。それを途絶えさせる瀬戸際にいることを関係者はもつと自覚しなければならぬのではないか。

### 反対派のこの先の 展望はあるのか？

一方、反対派の方々に対しても言いたいことがある。まず、この何十年という期間、水産業の生産額は一貫して右肩下がりである。それは当新聞でも指摘した。それをこれからどうやって挽回するのか聞きたい。

それに、漁業従事者の高齢化についてはどう考えるのか。若手が極端に少ないし、継承するという人は希少価値だ。

また、あまりにも収入が少なく、子供に継がせたくないというならば、特区の前にそれを何とかしなければならぬがどうか。

そして、企業による伝統破壊を言うならば、このままの状態を放置していたら、水産業の伝統は自らの手で破壊することになるのではないのか。引き継ぐものはいないこの最後の世代で、三陸の水産業は衰退ではなく、消滅してしまう。荒らされることよりもその方が余程罪深いと思えるのだが、そうではないのか。

三陸の水産市場のバイ全体を拡大する必要があるが、そうした戦略などは依然として聞こえてこない。このような状況のなか、特区論議ばかり取り上げるのは筋違いではないか。

も甘えているといえないか。水産先進国・北欧に学び水産業の革新を！

### 海に甘えてはいないか

筆者は幼少の頃、日本は水産国であると教えられてきた。しかしその看板はもうとつと捨ててしまったようだ。

漁業は前近代的な手法のままであり、漁業従事者は高齢化の一途。収入も少ない。でもいまさら変えられない。このままでもいいのだと。大分減少したとはいえ、海は生きていけるだけの資源は与えてくれる。こうした実情が今般の被災で明るみに出されたとも言える。

先祖たちは漁業の革新をその都度行ってきたはず。時代も変わり、収穫する水産物も変わる。それに対応してきたはずだ。

それなのに、まるで海を占有物のように扱い、その恩恵に甘えてきたし、いま

も甘えているといえないか。水産先進国・北欧に学び水産業の革新を！

震災直後、北欧から漁業の復興支援の手が差し伸べられたと聞いた。しかしそれは実現しなかった。不思議でならない。いくつかの原因はあるのだろうが、水産先進国である北欧の徹底した水産資源の管理状況を聞いてみな驚いて、それで支援の手を引いたのではないのか。そんなことはとてもいまの日本ではできないと。または、民間企業も他国もよそ者だからという理由で排除したのであるのか。



3世帯4人しかいなくなった桃浦の水産加工処理場

せっかくの申し入れを断るなどともつたないことではある。いまからでも遅くはない。水産先進国に学ぶべきである。特に次世代を担う若い世代に水産業留学でもさせてはどうか。そして、北欧で学んだノウハウを元に、日本の、いや三陸の被災地の水産業を立ち上げて欲しいものだ。

# 『北海道独立』と東北

「八百キロも離れたロンドンで、スコットランドの重要な事を決めるのは、そもそもおかしかったです。自分達の事は自分達で決める。その方がうまくいくのです。」

これは一九九九年、三百年振りに大英帝国からの自治権を取り戻したスコットランドにおいて、市民活動家としてその実現に大きな役割を果たしたイゾベル・リンゼイ氏の言葉である。スコットランド分権改革の成果や課題について、十年後の二〇〇九年に取材された『スコットランドの挑戦と成果』(イマジン出版)に収められた一節であるが、実はこの取材の主力となつたのが、行政・大学・新聞



奥越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出だし演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当。

社あげての「北海道勢力」だった。北海道は地理的要素、風土、人口、産業構造など多くの共通点を持つスコットランドに早くから着目し、九〇年代より政策交流を目的とした国際会議を開催していた。スコットランドといえば、既に本誌上でも私を含め多くの方が東北との比較論を展開している

るので、正直その符合に驚かされるが、北海道の狙いもやはり共通して、「首都」東京の支配を離れて自分達の事を自分達で決められる自治分権化、更には国家としての独立までも視野に入れた改革にあるだろう。現在、北海道の「北海道独立研究会」、九州の「独立九州の会」、そして沖縄で発足予定の「琉球民族独立総合研究会」などの存在が認められ、これだけでも現在、日本という国家が明治維新以来の大変革の胎動の中に

ある事が伺えるが、今回は東北にとつて、関東・東京とは一味違った意味での「隣人」である北海道について考察し、あらためて東北を捉え直してみたい。

## ＊

以前、本誌上でも綴つたのだが、私にとつて札幌・北海道は特別な場所である。山形から東京へ出る事しか頭になかった少年期の私がいざ住む事になった札幌が、私のその後の

都市観や民族観に大きな影響を与えたとし、現在もその島全体が、時折ふらりと出かける一人旅の、壮大な舞台であり続けている。東北回帰を決意し、その拠点に選んだ仙台で私は、この町の比較対象として常に、東京とともに札幌を心に描いている。

札幌・北海道と仙台・東北は、実のところあまり互いに言及し合わないが、多くの共通点を持ち古くから影響し合ってきた兄弟的、且つライバル的存在でもあるのだ。

仙台市の約二倍の規模を持つ、人口二百万人に迫る札幌市は、基本的に仙台と同様、東京・中央の支店経済都市の性格を持ちながらも、海を隔てたその距離感も手伝つてか、仙台よりもオリジナリティが強く、また道内に働く中央集権性の結果か、都市としての充実度も高く感じられる。古くからあった本州以南からの移民は、明治政府の国策によつて爆発的に増加したが、その多くは東北からの移入であった。東北帝国大学の文科である農科大学が札幌に置かれ、後に北海道帝国大学となつている。

## ＊

札幌・大通公園で八〇年代に始まった冬の「ホワイティルミネーション」が、仙台の冬の風物詩である「光のページェント」のヒントになった一方、仙台の音楽祭「ストリートジャズフェスティバル」が後の札幌の「City Jazz」の元になったと思われる。ドイツのビール祭を元にした「オータムフェスト」、高知県のよさこい祭を元にしたイベントなど、札幌に始まり仙台や全国に波及した行事は多いが、仙台の広瀬川岸で催される芋煮会に対し、札幌の豊平川岸で親しまれるジンギスカン鍋など、知らぬ間に共通点となったものもある。アジア諸国の人々を魅了するとい

う、雪景色の似合う整然とした街並や、共に北国の雄大な風景を数多く誇るなど、北海道と東北に共通する事柄は枚挙に暇がないほどだ。

歴史的には、東北が蝦夷、北海道が蝦夷、と同字異読と呼ばれてきた因縁の間柄である。両地域には縄文時代直系の人々が住み、共にアイヌ語系の言語が伝えられてきた。まさに両者は兄弟であり、その意味でも共にゲール系のケルト人が居住してきた、アイルランドとスコットランドの関係にも似ているのである。

## ＊

しかし、ここからが問題なのだが、確かに北海道は地理的条件や人口密度ではアイルランド、スコットランドに似ているとは言え、殊「民族意識」に関しては、全く異質である。それは、北海道があくまで先住民であるアイヌ民族の国としてではなく、云わば植民してきた大和民族の一派としての自治を目指す点で明らかだ。よつて「国土」の規模は全く違うが、北海道はむしろ同じく先住民問題を抱えるアメリカ合衆国に近い基本構造を持っていると言えるのである。その意味では、北海道自治は東北にない民族問題を常に背負う事になる。地元北海道では生活が苦しく、関東などへ出て行かざるを得ないアイヌが多くいた現実、今後日本という国家が、この立場を引継いで、次の時代の侵略搾取の被害に遭うという歴史を繰り返してきたため、意識的には先住民に同化・共感し得る結果をもたらしている。阿弖流為が例え血のつながらぬ別種族だとしても、彼を自ら

の元になったと思われ。ドイツのビール祭を元にした「オータムフェスト」、高知県のよさこい祭を元にしたイベントなど、札幌に始まり仙台や全国に波及した行事は多いが、仙台の広瀬川岸で催される芋煮会に対し、札幌の豊平川岸で親しまれるジンギスカン鍋など、知らぬ間に共通点となったものもある。アジア諸国の人々を魅了するとい

う、雪景色の似合う整然とした街並や、共に北国の雄大な風景を数多く誇るなど、北海道と東北に共通する事柄は枚挙に暇がないほどだ。

歴史的には、東北が蝦夷、北海道が蝦夷、と同字異読と呼ばれてきた因縁の間柄である。両地域には縄文時代直系の人々が住み、共にアイヌ語系の言語が伝えられてきた。まさに両者は兄弟であり、その意味でも共にゲール系のケルト人が居住してきた、アイルランドとスコットランドの関係にも似ているのである。

## ＊

しかし、ここからが問題なのだが、確かに北海道は地理的条件や人口密度ではアイルランド、スコットランドに似ているとは言え、殊「民族意識」に関しては、全く異質である。それは、北海道があくまで先住民であるアイヌ民族の国としてではなく、云わば植民してきた大和民族の一派としての自治を目指す点で明らかだ。よつて「国土」の規模は全く違うが、北海道はむしろ同じく先住民問題を抱えるアメリカ合衆国に近い基本構造を持っていると言えるのである。その意味では、北海道自治は東北にない民族問題を常に背負う事になる。地元北海道では生活が苦しく、関東などへ出て行かざるを得ないアイヌが多くいた現実、今後日本という国家が、この立場を引継いで、次の時代の侵略搾取の被害に遭うという歴史を繰り返してきたため、意識的には先住民に同化・共感し得る結果をもたらしている。阿弖流為が例え血のつながらぬ別種族だとしても、彼を自ら

る。先住民の意識を重視する点で、日本国内では沖縄の方が近いであろうし、また未だ水面下ではあるが他ならぬここ東北でも、私を含め少なからぬ人々が「蝦夷」という古の意識に回帰して、自立に向けた心の武器とすつた事、共鳴するところは大きいと考え

る。ただ、東北はまた特殊な土地柄で、構造的には北海道と同じくかつて先住民を駆逐して、植民側の血縁が大多数になっている可能性がなくはない。ところが、なまじ歴史が古く、人的移行が重層的であるために、どこまで先住民でどこかが渡来民だという線引きが不可能になってしまつて

いる。更に渡来民が先住民の立場を引継いで、次の時代の侵略搾取の被害に遭うという歴史を繰り返してきたため、意識的には先住民に同化・共感し得る結果をもたらしている。阿弖流為が例え血のつながらぬ別種族だとしても、彼を自ら

## ＊

このように、北海道と東北は多くの共通点を持ちながら根本的な民族意識が異なつており、これが両者の分権自治にも影響を及ぼす可能性が高いと思われるのである。次に、おそらくこの問題から生じる、両者の民間の性格的違いが作り出す自立への壁について考えてみよう。

北海道は、確かに一行政区としてのまとまりが当初から備わつていたため、行政が分権改革へ動き出せば速いであろう。ただ問題は道民の意識である。北海道では明治政府の国策として開拓民の生活が強いバックアップを受けてきたため、道民は伝統的に云わば官に頼りきりで、自分達で地域を動かしていかうという気が欠けると言われている。実は、仙台の祭やイベントの多くが地元民の働きかけで始まり、続けられているのに対し、札幌の場合そのほとんどが行政や県外人によるものだといふ。この「道民性」において、自らが望み勝ち取つた権利でなくして、人々は誇りを持つてそれを維持できるのか。それとも、北海道の自立が、道民の自立心をも焚きつける起爆剤となり得るだろうか。

一方、東北の状況は逆である。数々の催事を地元民で仕掛ける、と書いた通り、東北には民間の誇りと主張、結束力があるが、これは裏を返せば、長年に渡り国政に振り回され辛酸を舐めてきた東北人の、行政への不信感の表れとも言える。その行政はというと、古来よりいくつもの国、藩、そして今は県に分断され、各首長の思惑がバラバラである。これはいくら民間・個人の誇りや意識が高く、心では東北は一つになるべ

## ＊

きだ、と考えていてもその実現は難しいだろう。

北海道と東北、どちらの分権改革実現の可能性が高いか、といえば、やはり自らスコットランドまで乗り込んでいってしまう北海道に、東北が現時点で勝てるか?というところである。ただ、私個人の見解としては、東北にも一筋、希望の光が見えぬでもない。そのヒントは、いくら東北各県の思惑がバラバラでも、どこも単独で北海道のように分権化を叫んでいないところにあるように思う。つまり、反目し合つているように見える東北各県が、実は「自治・独立するならば、皆で」と考えている可能性がある、という事だ。衆観的すぎるだろうか。ともあれ、皆で分権改革を実現させるには、どうすればいいのか。誰もが思いあぐね、誰かが打開策を生むのを待っているのか。それとも、

冒頭にあげた書は、その出版の翌年に起きた大震災を経て、むしろ今、東北人のために生まれた一冊のよう

に思われる。そのタイトルにある、かの国の「成果」はどうだったのか。字数が尽きたので詳細は書けないが、リンゼイ氏の「十年前には戻りたくない」と、スコットランドの大半の人々が思つていました」という一言で、まずは十分ではないだろうか。

## ＊

最後にもうひとつ、彼女の言葉を借りて締めよう。民間・行政において互いに課題を抱える北海道と東北、「両国」の心にシンブレながら強く響き続けるだろう。

「自分達の事は自分達が決める」という強い意思が必要です。決して諦めず運動を続けられ、目標は実現します。」

冒頭にあげた書は、その出版の翌年に起きた大震災を経て、むしろ今、東北人のために生まれた一冊のよう

に思われる。そのタイトルにある、かの国の「成果」はどうだったのか。字数が尽きたので詳細は書けないが、リンゼイ氏の「十年前には戻りたくない」と、スコットランドの大半の人々が思つていました」という一言で、まずは十分ではないだろうか。

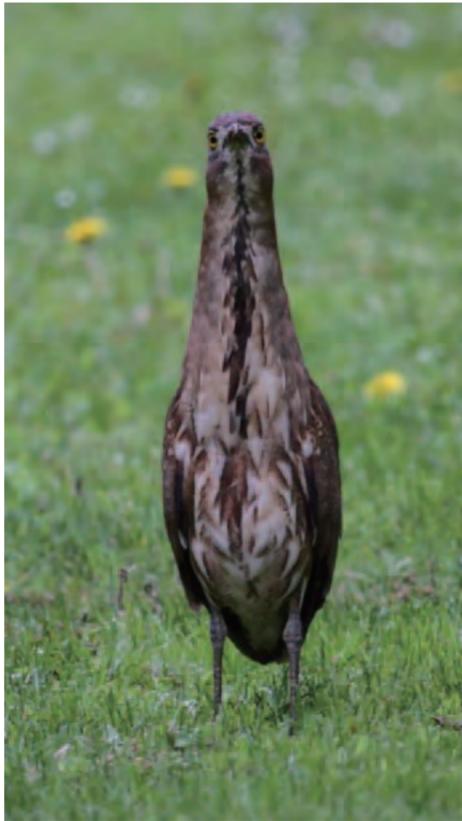
## ＊

最後にもうひとつ、彼女の言葉を借りて締めよう。民間・行政において互いに課題を抱える北海道と東北、「両国」の心にシンブレながら強く響き続けるだろう。



スコットランドに劣らぬ北海道の雄大さ (屈斜路湖)

# シリーズ 遠野の自然 「遠野の動物」 遠野 1000 景より



珍鳥-ミソゴイ



飛び立つ白鷺



ニホンカモシカ



真昼の決闘

ここに掲載した遠野の動物たちの写真を見ているだけでも、遠野にはなんてたくさんの動物がいるのかと驚く。遠野のすべての動物を掲載した訳ではないのに、そう思えるほどの数と種類の広がりを感じさせる。

鳥類、爬虫類、両生類、昆虫、小動物、大型動物など、まるで自然の動物園のようで、日本という国のなかでこれほどの種類の動物が自然な形で生存していることに驚きを禁じえない。

国内に生息する自然動物でよく話題に上るのは、主に、北は北海道があり、南に奄美大島などがあるが、前者はヒグマなど数が限られているし、後者は天然記念物であり、めったにお目にかかることができない。しかし、遠野は違う。これらの動物にめぐりあうことはそうめずらしいことでは

## 驚くほど多くの動物

ないようだ。

遠野には見るべきものが多いが、これら動物を見るだけでも十分な価値があると言え、これは遠野の新たな側面であると思う。

## 動物と人間の共生

遠野でも最近ではめずらしいということだが、ベゴボイ(牛追い)の写真などを見ると、とても懐かしい。かつての農村にはこうした光景はあちこちで見られたし、ついこの間まであった光景なのだ。同時に、そうした光景があつたという間に生活のなかから消えてしまったことを思い出させてくれる写真である。

かつて、牛や馬などの家畜でも、野生の動物でも、あたりまえに動物のいる風景や生活があつたように思う。それらがすっかりなくなつてしまった。以前はあつた動物と人間との交流が消滅し、いまは人間だけになつてしまったといえる。

## 厳しい自然と野生

野生動物が多く生存すれば、そこにはきびしい生存競争もある。その一部が「真昼の決闘」である。

対するに、人間は自然環境をさまざまな手段で克服してきて、いくら豊かな自然のなかで暮らすといつても、もう野生の時代には戻れない。

しかし、動物は人間と異なり、相変わらず自然のままである。それをまのあたりにすることはとても大事だと思ふ。遠野の自然は、人間が勝手に思い描く自然とか野生とかとは別物であることを思い出させる。

## 生物多様性から

### もつとその先へ

最近、生物多様性論議が活発である。生態系に含まれる種が絶滅すると生態系の安定度が低下し、さらに進めば地球生態系は崩壊を運命付けられてしまうと警告を与えている。そして生物多様性消失をもたらす要因

は、人間活動によつてもたらされる人口爆発、森林破壊、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、および地球温暖化や気候変動がある。

でもそこだけだとどめておく問題ではないと思ふ。上記のような生物多様性論議はまだまだ人間中心の視線での発想である。人間も、もとは野生生物であり、他の野生生物と変らないという発想まで進むべきである。

そこからさらに発展させ、日本人が忘れていく自然への畏敬の念、アミニズム、素朴な宗教意識にまで突き詰めていくべきではないかと思ふのである。



イトトンボの産卵



冬眠しないリス



べごぼい(牛追い)



モリアオガエルの産卵

# 東北への思い、さまざま

by MONKフォーラム

## 笑い仏さん 福島への行脚 関連レポート 第八回

- ① 『キャンドルナイト』  
活動主催者の思い
- ② あるカメラマンの思い  
元楽天・山崎選手の  
東北への熱い思い
- ③ 東北復興に関わる東北出身  
ではない『よそもん』であ  
る人々が抱いているさまざ  
まな思いをレポート  
そこから人々を惹きつけて  
いる東北にある何かが浮か  
び上がってくる

鳥取県である仏師の熱い  
思いから生まれた「笑い仏」  
を、福島県に届ける活動を  
しているMONKフォーラ  
ムです。このたびは、われ  
われの活動を少し離れて、  
東北出身ではない『よそも  
ん』の我々が抱いている、  
東北への想いを少しレポ  
トしたいと思います。

### ◆火を灯す

私が漠然と「東日本大震  
災と闘う東北に対して何か  
できないか」という想いを  
抱いているときに、大きな  
ヒントを与えてくれた「姉

貴」のような存在の方がい  
ました。この人との出会い  
が一つのきっかけになり、  
「笑い仏」さんの行脚が始  
まったと言えます。  
彼女は、『キャンドルナ  
イト』という電気を廃し  
て、炎の明かりだけを用い  
て、その明かりのもとで夜  
を過ごす、というイベン  
トを企画していました。聞  
くだけなら楽しそうだが、ま  
た簡単そうなのですが、詳  
細が分かると、これが実に  
大仕事なのです。まず、ろ  
うそくに灯す火が必要で  
す。これを彼女は和歌山か  
ら福岡県八女市の星野村に

まで、わざわざ取りに行く  
と言うのです。

なぜか？ それは、ここ  
に何と広島原爆の「残り  
火」が保管されているから  
なのです。「平和の火」と  
呼ばれるこの炎は、広島で  
家族を失ったある青年が、  
ふるさとに種火として持ち  
帰り、かまどに移し替え、  
現在まで一度も消すことな  
く保存しているのです。  
ちよつと信じられない話で  
しょう？でもホントにそん  
な火が今に存在するのです。  
彼女はその火を携帯カ  
イに移してもらい、それを  
福島に届けると言うので  
す。本当に驚きました。そ  
う、彼女にとっては、この  
光のイベントに用いる火  
は、何でもよい訳ではない  
のです。破壊と再生を象  
徴する、『この火』でなけ  
ればいけないのです。

しかし、これが実に大変  
な作業で、まずは単身で車  
をブツ飛ばして福岡に行き  
まして、その「原爆の火」  
を入手します。次に、いろ  
いろな場所での炎を分け  
ながら、福島に向かうので  
す。ちよつと「聖火ランナ  
ー」に似ていなくもないで  
すね。長距離トラックの運  
転手もビックリの離れ業で  
す。

「東北のためとはいえ、  
なんでそんなつらいことま  
でやるのですか？」  
あるとき私は、彼女に素  
朴な質問をぶつけてみまし  
た。すると彼女は、ことも  
なげにこう言うのです。

「やらないと、気持ちか  
落ち着かないのよね。」  
理由は、たつたそれだけ  
でした。それ以上何も付け  
加えない、あつけないほど  
シンプルなお返でした。

ただし、彼女のこの行動  
は、家族が心配するほどの  
「苦行」になります。子ど  
もは半ばあきれながら、少  
し尊敬しながら、このすま  
まじい行動力を持つ母親を  
送り出しています。

そんな彼女の姿に接して  
いると、「のためにやる」  
なんていう綺麗な台詞は、  
実は嘘つばちなのではない  
か、とすら思うようになり  
ました。尊大というか、お  
こがましいというか……  
です。で、我々は、居て  
も立つてもおれん自らの気  
持ちを表現する、あるいは  
落ち着かせるために、今の  
「笑い仏」の活動をしてい  
るのかも知れません。むろ  
ん、「東北の人々を励ます  
ため」というのは偽りのな  
い発端ではありますが、あ  
くまで、自分たちのため  
に活動を続けているような  
気がしています。

### ◆残す

知人にカメラマンの方が  
います。この方は3・11  
以降に時節、東北を訪れて  
写真を撮っています。先日  
も、二年後の3・11に石  
巻に行ってきたそうです。  
そこで何を感じたのかを聞  
いてみました。  
「正直に言う、場所に

もよるけど、震災の痕跡を  
感じるところが少なくなっ  
てきているという印象を持  
ちます。でも、自分が撮り  
たいのは、いわゆる『震災  
の爪跡』ではなくて、今の  
人々の、この姿なんです  
よ。それが、見る人にどう  
映るのかはわからないけど  
……。五年後、一〇年後に見  
た人が、どう思うのかって  
ことが、とても気になっ  
てね。」

彼は、あの阪神大震災を  
経験しています。あるとき  
も多くの人が亡くなりまし  
た。それも一瞬にして。そ  
れは、東北の場合も同じで  
す。しかし、「少し違うの  
では」と彼は続けます。  
「東北の方は、『そこ』で  
亡くなったのではなく、流  
されて亡くなった方も多  
い。だから、『そこ』に、  
自分のすぐそばで眠ってい  
るとか、そういう感覚を持  
てないのかも知れない……  
何と云うのか、まだ亡くな  
った方とゆらゆらとつなが  
っている、とても言うのか  
……。」

その感覚が望みとなるの  
か、痛みになるのかは、私  
にはわかりません。でも彼  
は、そんな違和感も含めて、  
そこで「撮る」という行動

### ◆見せたい

を通して、あの出来事を残  
してあげたいと考えている  
のです。

最後は、友人のスポーツ  
ライターに聞いた話をした  
いと思います。彼が取材し  
たプロ野球選手に、東北で  
見事な復活を遂げた、中日  
ドラゴンズの山崎選手がい  
ます。山崎選手は、中日か  
らオリックスに行き、そこ  
をクビになり、宮城を本拠  
に置く楽天に拾われまし  
た。そこで野村前監督と  
出会い、二〇〇七年には、  
三九歳にして四三本塁打、  
一〇八打点という活躍で、  
見事二冠王に輝いたので  
す。

彼は、復活の後押しをし  
てくれた東北のファンのこ  
とを、片時も忘れることは  
できないと繰り返し言いま  
す。中日に移籍した今でも、  
オフの間には東北を訪れ、  
チャリティーイベントを行  
っています。プロ野球には  
交流戦というものがありま  
して、一年に一度だけ、セ  
リーグの中日が、仙台で楽  
天と戦う機会があります。  
彼はそれをとても楽しみに  
しているそうです。(今年  
は六月二、三日に仙台のク  
リネックススタジアム宮城  
にて開催。)

ただ、いま彼は不調のた  
め、一軍ではなく二軍で  
調整を続けています。年齢  
による衰えもあるのではし  
ょう。四四歳という歳は、現

役野手では最年長です。コ  
ーチもやれそうな年齢の選  
手と一緒には汗を流してい  
るのです。明確な目標がある  
から頑張れるのだ、と言  
います。

「もう一度、東北のファ  
ンの前で一発打ちたいから  
ね！」  
山崎選手は、愛知県出身  
で家族もいる身ながら、東  
北に移り住むことも真剣に  
考えたそうです。それほど  
までに、東北のファンに感  
謝の気持ちがあるのではし  
ょう。東北への熱い思いが、  
四四歳の体を突き動かすの  
です。

### ◆エピソード

東北について、かように  
各人の想いはさまざま  
です。それは、我々が行って  
いる笑い仏さんの活動でも  
知ることができました。そ  
れらは全て、仏さんの前に  
置かれ、訪れた人たちがぎ  
つしりと書き込んだ、芳名  
帳で知ることが出来ます。  
「私も、がんばりますから。」  
こんな言葉がありました。  
東北の今ある姿、諦めずに  
踏ん張る姿が、他の場所に  
いる人々を励ましている  
ということでしょう。そんな  
想いをいつの日か、福島に  
きつちりと届けたいと思っ  
ております。

MONKフォーラム  
長谷川稔

あなたの著者制作、お手伝い致します！  
電子新聞発行のお手伝いを致します！  
お気軽にご相談ください。



『立ち上げられ、オジサン！』  
砂越 豊 著



『もうひとつの構造改革』  
砂越 豊 著

※電子新聞創刊特別値引  
上記2冊ともに 1260円⇒500円(税込)

遊無有出版

検索



『東北独立』 砂越 豊 著  
価格：1,260 (税込み)

時間が経過すればするほど  
『東北独立』という選択肢が  
より現実的になってくる



河北新報広告掲載  
2012.2.12  
2012.3.13

遊無有出版  
YUMUYU Publishing

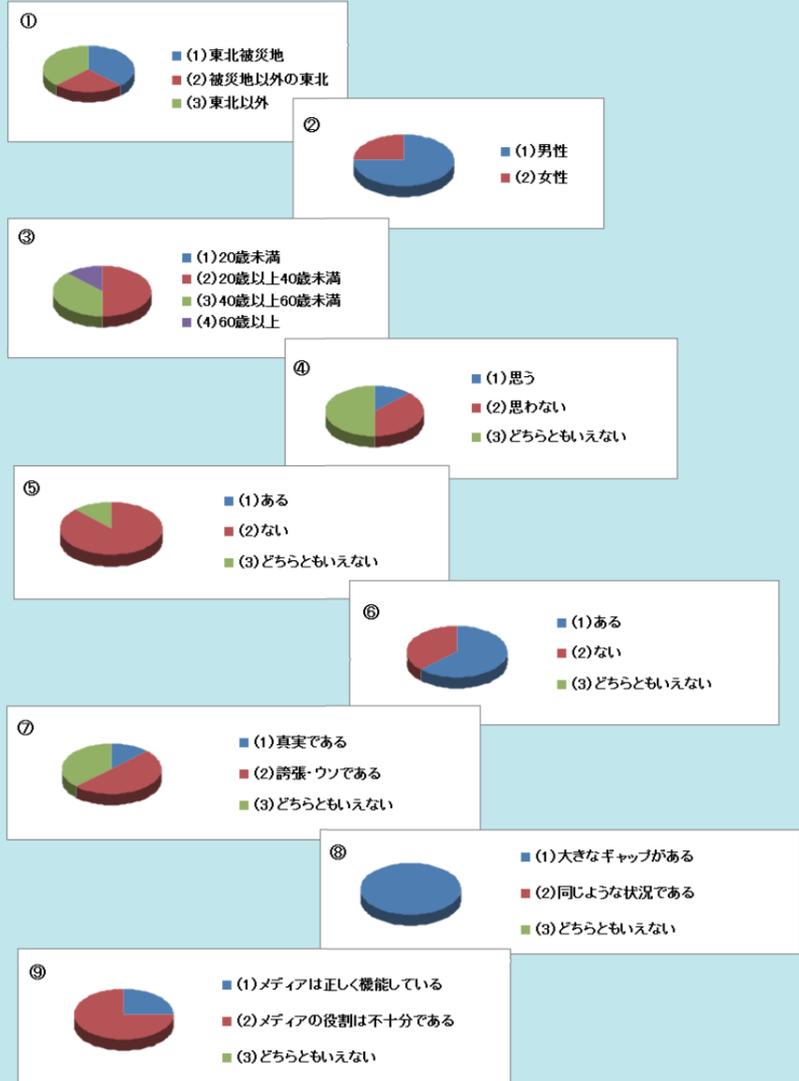
立川事業所 042-512-9833  
本社 042-562-3507

立川事業所 yumuyu@wj8.so-net.ne.jp  
本社 contact@yumuyu.com

## 第11号 ネットアンケート集計結果

### 【「仙台で復興バブル発生」は本当か?】

No.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1)東北被災地	3
	(2)被災地以外の東北	2
②	性別	
	(1)男性	6
	(2)女性	2
③	年齢	
	(1)20歳未満	0
	(2)20歳以上40歳未満	4
	(3)40歳以上60歳未満	3
④	仙台で復興バブルは起きているか	
	(1)思う	1
	(2)思わない	3
	(3)どちらともいえない	4
⑤	仙台で復興バブル現象を見たか?	
	(1)ある	0
	(2)ない	7
⑥	仙台復興バブル情報を直接耳にしたか?	
	(1)ある	5
	(2)ない	3
⑦	仙台復興バブル情報の真偽は?	
	(1)真実である	1
	(2)誇張・ウソである	4
⑧	仙台市街と沿岸被災地の復興ギャップ	
	(1)大きなギャップがある	8
	(2)同じような状況である	0
⑨	仙台復興バブル情報とメディアの役割	
	(1)メディアは正しく機能している	2
	(2)メディアの役割は不十分である	6
	(3)どちらともいえない	0



今回もアンケートへの回答者は八名にとどまりました。テーマは「仙台で復興バブル発生」は本当か?」でしたが、時期がずれたために多くの人の関心を得られなかったのではないかと反省しております。

まず、「仙台で復興バブルは起きていると思うか?」との質問には、どちらとも言えないが半数、発生していないが37.5%。『実際に仙台で復興バブル現象を見たことがあるか?』との質問は、ないが圧倒的で87.5%。『仙台復興バブル情報を直接耳にしたことがあるか?』には、あるが62.5%。ないが37.5%。結局のところ『仙台復興バブル情報の真偽についてどう思うか?』には、誇張・ウソであるが半数、どちらともいえないが37.5%と割れた。『仙台市街と沿岸被災地の復興ギャップについてどう思うか?』には100%が大きなギャップがあると回答。『仙台復興バブル情報とメディアの役割についてどう思うか?』には、メディアの役割は不十分が75%でした。

この結果を読み解くと、仙台の復興バブルは見たこととは異なるが、聞いたこととはあり、でも多少誇張気味に感じる。仙台市街と沿岸被災地のギャップは誰もが認める。マスメディアはこの問題にもっと努力すべきである。とまとまりそうです。

**編集後記**

今年のゴールデンウィークは結局「お休み」とはならなかった。初日は三陸酒海産物展であり、その日は帰れず、翌日になってからの三陸支援をどう展開するかの打ち合わせ。5/1から5/3までは、新聞の今月号企画と記事執筆と散らかり放題となった自室の整理整頓。自室は取材資料だらけで足の踏み場もない状態で何とかしなければ身動きが取れない。5/4・5は大室南部神楽の取材と海産物調達の交渉と帰省と墓参り。5/6は身内の来訪。

休みに入る前は、「つん読」となっていたたくさん本でも読もうと思っていたがかなわなかった。せめて伊治哲麻呂(これはるのあざまろ)関係の小説数冊は何とか読み終えようと思っていたが、新幹線の往復のほんのちよつとの時間しか確保できなかった。でもこの期間は結果的には充実していた。

最近、自分が今年選暦を迎えることを考える機会が増えた。これまでついぞ自分が選暦という年令を迎えるなど想像も出来なかったが、いよいよその歳になったのだ。人には「新たな誕生日」を設定し、新たな人間になると吹聴しているが、本当にそうなるかどうか、すべてはこれからである。

## 革物屋 (かわもんや) WEB完全リニューアル (WEBを移動しました)

<http://www.birthday-press.com/> (バースデイプレス) → 「小物のカテゴリー」 → 「レザー」

### ミニバッグ Handy Second



持っていたくなる革バッグ。インナーバッグとしてもお使いいただけるセカンドバッグ。革は薄めの柔らかなものを使用し、手触り感を重視いたしました。内側は耐久性のある光沢ナイロン製布を使用。

### ミニバッグ Tiny Dice



用途ご自由の四角いケース。重量40gと比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

### ミニバッグ Tiny Log



用途ご自由のまるいケース。重量40gと比較的軽量の製品ですので、携帯ストラップ用としてお使いいただくもよし、大きなバッグに吊り下げていただくもよし。また、中に贈り物をつめてプレゼントケースとしてのご利用も一考かと。使い方は工夫次第。

### モバイルバッグ Beans L



レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans Lは、その両方でご満足いただけるバッグです。

### モバイルバッグ Beans S



レザーでオールマイティ、両方のご満足。これまで、オールレザーでお手頃価格のモバイル端末用バッグは多くありませんでした。また、各モバイル端末専用バッグはありましたが、どの端末でも収納可能なオールマイティバッグも多くはなかったようです。Beans Sは、その両方でご満足いただけるバッグです。

### モバイルバッグ Handy Pouch



あなたにお供するポーチ。持ち運び可能で、デスクやテーブルに置いて開け閉めできるポーチ。上下蓋部分の内側にスポンジを挟み込んでおりますので、モバイル端末機器の付属品の収納にもお使いいただけます。